

経営健全化計画の平成 28 年度実施状況

京 都 府 京 都 市
京都市高速鉄道事業特別会計

第 1 計画と具体的な措置の状況

平成 28 年度については、全庁を挙げた増客の取組や駅ナカビジネスの積極的展開、お客様サービスの向上などによる収入増加策とコスト削減策に加え、一般会計からの多額の補助金の繰入れもあり、経常損益は前年度に引き続いて 2 年連続となる黒字を計上し、現金収支（償却前損益）は過去最大となった前年度を更に上回る 106 億円の黒字を計上した。その結果、前年度に引き続いて財政健全化法に定める資金不足はない状況である。

しかしながら、3 千 7 百億円を超える企業債等残高や、3 百億円を超える累積資金不足を抱えるなど、未だ全国一厳しい経営状況に変わりはない。

今後は、平成 29 年度に一般会計からの補助金収入が大きく減少することにより、資金不足比率が再び経営健全化基準の 20%を上回ることが見込まれるため、引き続き経営健全化団体として、計画に掲げる経営健全化の取組を推進し、計画最終年度である平成 30 年度に向けて、一般会計からの経営健全化対策出資金の繰入れなしで安定的に資金不足比率が 20%を下回るよう全庁を挙げた取組を進めていく。

1 収入増加策

ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現に向けて、市民の皆様の御理解と御協力を得て、オール京都で公共交通の利用促進に取り組み、全庁組織である「地下鉄 5 万人増客推進本部」の下、岡崎エリアなど駅周辺での観光・集客イベントを開催したほか、大学・企業と連携した駅構内への芸術作品の展示や地下鉄・市バス応援キャラクター「太秦萌」等を活用した様々な PR 活動の展開など、地下鉄の魅力向上に努めた。また、駅周辺の地域の皆様や事業者の方々の御協力を得て駅への案内・誘導表示の充実にも取り組んだ。

駅ナカビジネスにおいても「コトチカ京都」を増床し新たに 5 店舗を開業するとともに、「コトチカ北大路」の開業に向けた実施設計に着手するなど、更なる増収と駅の賑わい創出を図った。

さらに、烏丸線における可動式ホーム柵が未設置の駅へのホーム端の注意喚起ラインの設置や駅出入口への止水板の設置、また IC カードによる乗継割引の導入や IC 定期券の導入に向けた環境整備など、お客様に安全、安心、便利に御利用いただくための取組を推進した。

これらの取組の結果、1 日当たりのお客様数は、前年度に比べ 7 千人増加し、経営健全化計画に掲げる平成 30 年度の 5 万人増客目標（1 日あたり 37 万 5 千人）を 2 年前倒しで達成することができた。また、運輸収益と駅ナカビジネス収入等を合わせた営業収益は、計画を 10 億円上回る 274 億円となった。

2 コスト削減策

安全に十分留意したうえでの地下鉄設備の更新期間の延長や節電対策の実施など、徹底したコスト削減に努めた。

3 一般会計からの支援

計画に基づき、経営健全化対策出資金を繰り入れた。

第2 資金不足額解消の状況

(単位：億円)

区 分		計画初年度 の前年度	計画初年度 (平成21年度)	第二年度 (平成22年度)	第三年度 (平成23年度)	第四年度 (平成24年度)	第五年度 (平成25年度)
資金不足 解消額	当初計画 A		17	1	26	39	46
	解消実績額 B 又は 現在計画 C		46	86	40	60	16
	B-A 又は C-A		29	85	14	21	△30
資金不足額 (解消可能資金 不足額控除後)	計画		293	291	265	227	181
	実績額		310	264	178	138	78
資金不足額	計画		311	311	311	311	311
	実績額		310	310	309	309	309

区 分		第六年度 (平成26年度)	第七年度 (平成27年度)	第八年度 (平成28年度)	第九年度 (平成29年度)	第十年度 (平成30年度)
資金不足 解消額	当初計画 A	13	61	52	△12	67
	解消実績額 B 又は 現在計画 C	24	69	40	—	—
	B-A 又は C-A	11	8	△12	—	—
資金不足額 (解消可能資金 不足額控除後)	計画	168	107	55	67	0
	実績額	38	0	0	—	—
資金不足額	計画	311	309	308	305	303
	実績額	309	309	309	—	—

注1 「当初計画 A」は、経営健全化計画の金額である。

注2 億円未満の端数処理により、合計等が一致しない箇所がある。

注3 資金不足解消額の平成25年度「実績額 B」が「当初計画 A」を下回ったのは、計画で見込んでいた5%相当の運賃改定を見送ったためである。

第3 資金不足比率の状況

(単位：%)

区 分	計画初年度 の前年度		計画初年度 (平成21年度)		第二年度 (平成22年度)		第三年度 (平成23年度)		第四年度 (平成24年度)	
	実績値		計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
資金不足比率	133.5		126.8	114.5	125.7	76.2	114.0	57.8	96.9	31.9

区 分	第五年度 (平成25年度)		第六年度 (平成26年度)		第七年度 (平成27年度)		第八年度 (平成28年度)		第九年度 (平成29年度)
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値
資金不足比率	73.6	24.4	66.6	14.8	41.5	—	20.7	—	24.7

区 分	第十年度 (平成30年度)	備 考
	計画値	
資金不足比率	—	平成28年度においては、計画に掲げた1日5万人増客目標を達成したほか、コスト削減に努めたことなどにより、経常損益は黒字となり、資金不足比率は計画と比べて大きく改善した。